

有機分子のフィジカル空間とサイバー空間の狭間で； 今、シミュレーションで解決すべき有機デバイスの課題

我々が有機分子を用いたデバイスを実際に作製・評価している「フィジカル空間」と、第一原理計算や分子動力学などのシミュレーションがはしる「サイバー空間」の間には、取り扱う時間や空間スケールに、まだなかなか埋まらない大きなギャップがあります。本シンポジウムでは、実験・理論を専門とする研究者が最新の成果や課題を持ち寄り、両者のギャップを埋める『物理モデル』の構築へ向けた展望について議論します。

招待講演者（講演順・敬称略）

久保野 敦史 静岡大学 工学部
物理モデルに基づく有機薄膜形成解析
— 現実の系とシミュレーションの橋渡し —

松井 弘之 山形大学 有機エレクトロニクス研究センター
実験・計算・データ科学の連携による有機トランジスタ研究

野口 裕 明治大学 理工学部
非晶質有機半導体薄膜の自発配向分極と
有機EL素子の駆動・劣化機構

石山 達也 富山大学 大学院理工学研究科
界面の構造と分光の分子シミュレーション研究

永井 哲郎 岡山大学 異分野基礎科学研究所
空間的不均一性が規定する物質輸送：
大規模分子動力学計算と新規動的モンテカルロ法による解析

島田 敏宏 北海道大学 工学部
有機デバイス関連プロセスにおける
シミュレーションと実験の比較と展望

2026年3月15日(日) 13:30 – 17:15
WL1 201会場（西講義棟1 2階）